

スポーツ少年団の組織強化目指し 指導者や母集団対象の研修会開催

7月3日、スポーツ少年団の指導者や、保護者などをつくる母集団が対象の研修会が文化会館で開かれました。講師は、滋賀県の多賀少年野球クラブ監督で、小学生の甲子園ともいわれる「全日本学童軟式野球大会」で2連覇を達成した辻正人さん。「子どもたちが楽しむ野球」を目指す辻さんの話に、参加した約200人が耳を傾けました。



辻さんの野球の特徴は、子どもたち自身が次のプレーを考える「ノーサイン野球」。自らの判断で考え、行動できる力を育てることに力を入れています

河川をより美しく豊かな清流に 河川浄化等推進員に22人を委嘱

7月2日、河川浄化等推進員の委嘱状交付式が行われました。推進員は、河川浄化に関して深い関心と理解をもち、活動する熱意のある人を市長が委嘱するもので、再任18人、新任4人の計22人に委嘱。推進員はそれぞれが受け持つ河川の水質・環境のパトロールや河川浄化に関する啓発のための広報、教育活動などを行います。



委嘱された推進員22人の任期は令和8年6月までの2年間。市が誇るきれいな水、美しく豊かな河川環境の保全・維持を目指し活動します

プロ野球独立リーグ公式戦開催を歓迎

6月30日、市合宿誘致推進協議会からプロ野球独立リーグ球団の宮崎サンシャインズと北九州下関フェニックスに、「太陽のタマゴ」を贈呈しました。総合運動公園市営野球場での公式戦開催へ歓迎の意を込めたもので、贈呈式後は市長による始球式も行われました。



地域のつながりで非行や犯罪を防止

7月1日、「第74回社会を明るくする運動」内閣総理大臣メッセージ伝達式が市役所で行われました。運動は、7月を強調月間として全国で展開。犯罪や非行、再犯を防止し、過ちを犯した人の立ち直りに理解を深めることで、安心・安全な地域社会を目指すものです。



人権擁護委員2人が退任 長年の功績に感謝状を贈呈

7月2日、人権擁護委員として長年市民の人権を守る活動に尽力した、井野真由美さんと馬水裕子さんに法務大臣感謝状と県人権擁護委員連合会長感謝状が贈られました。井野さんは「委員としての経験は自分の財産。今後も何らかの形で参加したい」、馬水さんは「相談を受ける中で私自身も人権擁護の大切さを学びました」と話しました。



両名は令和6年6月30日付けで退任。井野さんは4期12年、馬水さんは2期6年の間、人権擁護委員として人権啓発活動に尽力いただきました

株式会社サザンクロスシステムズが 教育環境の充実を目的に寄付

6月27日、ソフトウェア開発などを手掛ける株式会社サザンクロスシステムズ（永田英一郎代表取締役社長）が市に100万円を寄付しました。企業版ふるさと納税制度を活用したもので、寄付金は、同社の意向によりICT教育の推進に活用されます。本市出身の永田社長は「地元の若者へのIT教育に活用してほしい」と話していました。



同社からは令和3年度と令和5年度にも寄付をいただいています。贈呈式後、寄付を活用した市内小・中学校でのICT教育推進について報告が行われました

国スポ会場の小野湖でカヌー合宿

6月28日から30日にかけて、2027年に宮崎県で開催される国民スポーツ大会カヌー競技の会場の小野湖で宮崎工業高校が合宿を行いました。小野湖でのカヌー競技の合宿開催は今回が初めて。参加した生徒は「波がなくこぎやすかった」と話していました。



和牛枝肉共進会で馬場牧場が最高賞

6月18日、株式会社ミヤチク高崎工場（都城市）でJA宮崎経済連和牛枝肉共進会が開催され、有限会社馬場牧場が最高賞のグランドチャンピオンに輝きました。共進会には県内各地から103頭の枝肉が出品。優良賞2席には中窪勝彦さんが輝きました。



陸上自衛隊えびの駐屯地の隊員ら カブトムシを保育園児に贈る

6月20日、陸上自衛隊えびの駐屯地の隊員をつくる曹友会が朝日保育園（坂下エイ子園長）の園児30人にカブトムシやクワガタを贈りました。隊員が休日などに集めたカブトムシなどを地域の保育園や幼稚園に贈る取り組みで、園に訪れた芥川隆之事務局長は「たくさんの人の協力でこれだけ集まった。大事に育てて」と話しました。



坂下園長は「本物のカブトムシを見たことがない子どもたちもたくさん。自分で育てることで、いのちの大切さを学んでもらえたら」と話しました

思いやりの心を花とともに育てて 紙屋中学生徒へ「人権の花」

6月26日、「人権の花」運動の苗が紙屋中学校（竹之内千春校長）の生徒に贈られました。苗は、花を育てることを通じて思いやりの心を育ててもらおうと、市と宮崎地方法務局都城支局などが贈ったもの。代表して花の苗を受け取った川内愛美さん（3年）は「もらった花は全校生徒で大切に育てていきたいです」とお礼を述べました。



贈られたのは、ペチュニアやニチニチソウなどの苗280株。苗は生徒らによって校内に植えられ、付近には一緒に贈られた立て看板を飾ります

無病息災や五穀豊穡を祈る伝統行事 霧島岑神社、野尻小学校、東方中学校で「六月灯」まつりを開催



【霧島岑神社】Photo1 灯籠で彩られた参道 2 獅子舞【野尻小学校】3 多様なステージイベントでにぎわう会場 4 体育館までの渡り廊下を飾るたくさんの灯籠 5 家族連れでにぎわう屋台【東方中学校】6 ステージイベントに飛び入り参加する子どもたちも

7月13日、市内各地で「六月灯」が行われました。六月灯は、旧薩摩藩領に伝わる無病息災や五穀豊穡を祈る夏祭り。霧島岑神社では、地元小・中学生や園児が作った100個の灯籠で参道が幻想的に彩られ、来場者は巫女の舞や獅子舞、太鼓や屋台などを楽しみました。野尻小では、小学生や地域住民が作成した灯籠が会場の体育館までの渡

り廊下を装飾。神事後、地元保育園児によるこども神輿で祭りがスタート。歌や踊りなどのステージイベントで盛り上がったほか、子どもたちのラムネ早飲み大会や抽選会が催されました。東方地区では4年ぶりの開催。祭りは東方中学校の体育館で子どもたちのダンスなどのステージイベントが行われ、多くの家族連れがにぎわいました。

味もおもてなしも三ツ星！ 小林西高の三ツ星レストラン開店

7月18日と19日、小林西高校調理科3年生が実習で培った調理の腕をふるう「三ツ星レストラン」が開かれました。7月11日には、市長や生徒の出身中学校の校長などを対象に、本番さながらに料理の提供や接客を行うプレオープンを実施。野菜がふんだんに使われたスープやカレイのあんかけなどのコース料理が振る舞われました。



プレオープンで接客を担当した豊原琉希さんは「練習とは違い緊張したが、楽しかった」と笑顔。本番は2日間で約270人が来店し、料理を堪能しました

新興不動産有限会社が 教育環境の充実を目的に寄付

7月11日、不動産の仲介業・管理業などを営む新興不動産有限会社（森山芳太郎代表取締役）が、市に100万円を寄付しました。寄付贈呈式で森山代表は、「不動産業はまちの人の力を借りて成り立つものなので、いつか地域に恩返ししたいと常日頃思っていた。わずかだが市民の皆さんのお役に立てれば」と話していました。



寄付は企業版ふるさと納税制度を活用したもの。いただいた寄付は同社の意向に基づき市内小・中学校の教育環境の充実に活用されます

暑い夏にゆずの風味でさっぱり 小林発クラフトビールが今年も完成

小林市の湧水と須本地区のゆずを使用したクラフトビール「KOBAYASHI ni ALE」が今年も完成し、7月8日にお披露目会が開かれました。小林にエール（応援）を送るという意味を込め、昨年初めて市民団体が販売。ビールは、すきむらんどで持ち帰り用として販売するほか、市内飲食店での提供やイベントでの販売も予定されています。



団体代表の池田幸士郎さんは「昨年は、小林初ということで県外からも大きな反響があった。ビールを夏恒例のものにしていけたら」と話していました

出の山淡水魚水族館で七夕イベント

7月7日、出の山淡水魚水族館で七夕イベント（小林まちづくり株式会社主催）が開催されました。願い事を書いた短冊を館内や水槽の中に飾ることができる体験イベントが行われ、会場には新衣装を着たこすも〜も登場。多くの家族連れが七夕を楽しみました。



ウルトラマンゼロが市役所を訪問

7月17日、ウルトラマンゼロが市役所を訪れました。8月18日に宮崎市で株式会社宮崎放送の開局70周年記念主催事業のライブイベントが開催されることを記念し、県内全26市町村を訪問するもので、会場の子どもたちは大きな歓声を上げていました。



渡りのチョウを小林小に招くため 「アサギマダラを迎え隊」発足

7月4日、小林小学校（吉井秀一校長）に「アサギマダラを迎え隊」が発足しました。アサギマダラは世界的に珍しい渡り（長距離の移動）をするチョウ。隊は児童と保護者を含む13人で構成され、同校の校門近くに植えられた、アサギマダラが好む多年草のフジバカマの水やりや草取りなどを行うことで、チョウの飛来を目指します。



隊員の河島未来さん（6年）は「フジバカマを大きくきれいに咲かせ、アサギマダラがたくさん集まる花壇を作りたい」と意気込んでいました

社協と㈱トヨタレンタリース宮崎 災害時の車両貸渡に関する協定締結

7月5日、小林市社会福祉協議会（吉丸政志会長）と株式会社トヨタレンタリース宮崎（佐土嶋健代表取締役）が災害時における車両の貸渡に関する協定を結びました。災害時に市社協がボランティアセンターを立ち上げた際、不足することが予想されている車両を同社が貸し出し、迅速な支援・復旧につなげることを目的とするものです。



締結式で佐土嶋代表は「車は携帯電話の充電や一時避難場所としての活用もできる。迅速な復旧に役立ててもらえたらうれしい」と話していました